

2年2組

 ぼくたち わたしたちの「藍」  
 ～藍から感じる植物の凄さ～


## 「藍の種」との出会い 藍染め目指して！

「うわあっちゃい」。2組の子ども達が「藍の種」と出会った時のつぶやきです。昨年度、玉ねぎやマリーゴールドで草木染めを体験した2組の子ども達。黄色や茶色以外にも「藍色」に染めることができる植物があることを紹介しました。それが、「藍」です。

オリンピックのエンブレムも藍色。サッカー日本代表ユニフォームも藍色。日本の文化とつながりのある藍ですが、子ども達に「どんな色の植物だと思う？」と問いかけました。すると、「藍色」にクラスの半分ほど、「緑色」にクラスの半分ほど、他の色に1～2人ずつ手を挙げていました。そこで、実際に藍の写真を見せました。答えは緑色。しかし、本当にこの色の植物から藍色が出るのか……。そんなことを確かめるべく、取り寄せた「藍の種」。子ども達に少し見せると、「たくさんあるから分けて」「育ててみたい」との声が。そこで、1人に最初は10粒ずつ配り、よく観察しました。

「朝顔の種より小さい」「ごまみたいで、すぐにどっかにいっちゃいそう」「こんな小さな種から本当に葉っぱになるの？」と興味津々。「名前を付けてあげよう」、「お母さんの気持ちになってがんばって育てたい」という子ども達もいました。初めて見る藍の種に、愛を注ぎ始めていた子ども達。果たして、大きく生長するのか、藍染めできるまでの量を収穫できるのか。2組の挑戦が始まりました。



## 藍の生長を感じる子ども達

朝、教室に行くと、「先生、藍の芽が出てきたよ」と知らせてくれる子ども達。5月に入ると、クラスで育てている藍から芽が出てきました。観察している中で、Aさんの観察記録には次のように記されていました。



あいのたねがめちゃめちゃ小さいのに、めがでてきたら、でっかくてびっくりしたよ。たねが3こ入っているのにめが6こでてびっくりした。ほんとぼくの子もだね。

あの1mmにも満たなかった藍の種の生長を間近で見て、改めて植物の生長の驚くべき早さと力強さを感じ、愛着が出てきた子ども達でした。観察中は「こんなに大きくなっている」「朝顔みたいにぐんぐん生長する」とつぶやき、昨年度の朝顔の栽培の経験と重ねて藍を見つめていました。

そんな藍も順調に大きくなり、数週間たったある日のことです。「先生、黒いポットの中で藍が窮屈そうだよ」とBさんが知らせてくれました。「間引きしないと、これ以上大きくなれないよ」とみんなに語りかけ、クラスでは、藍を植え替えることになりました。選んだ場所は、校庭奥の畑です。

植え替えをしている時に「先生、根っこが凄い」と、Cさんはポットからはみ出んばかりの根っこが生えた藍を見せてくれました。作業を終えたDさんの日記には、次のように綴ってありました。



あいはすごい！

きょうは、あいのうえかえをしました。あいをうえかえしたときに、黒いカップをからあいのねっこがはみ出ていました。わたしは、びっくりして、Ｙさんに言いました。そうしたら、Ｙさんが「わー！長い！」と言いました。わたしもＹさんもびっくりしていました。わたしのあいののはっぱよりも、Ｙさんのあいののはっぱは、すごく大きかったです。たぶん黒いカップにいるときわたしのあいは「わー！ここすごくきついわ！」と言っていたと思います。やっぱりあいは、すごいと思います。あいが大きく大きくなったとき、そめものをしてあいろになってほしいと思いました。

あんな小さな種から、想像がつかないくらい生長している植物の強さを間近で見て、藍の凄さを感じていました。

また、実際に植え替え作業を始めると、畝を作るのに一苦労、マルチをかけるのに一苦労、植えかえるのに一苦労。子ども達は、「農家の人ってこんなに大変なんだ」とつぶやいていました。

「もの」があふれている現代ですが、こうした作業を体験することで、私たちの手元にある「もの」には、たくさんの苦労や人の思いが入っていることを感じられます。私達が口にするもの、私達が身に付けるもの、私達が使うもの、「畑」での体験を通して、そんな思いを感じ始めている子ども達がありました。植え替えた藍は梅雨の時期の雨をしっかりと蓄え、今では60cmほどまで大きくなりました。

2年2組の「愛」がこもった「藍」。果たしてこの先どんな思いが込められ、どんなものになるのか……。夏休み明けには、いよいよ「藍染め」の活動が始まります。本当にあの「藍色」になるのか、子ども達の追究は続いていきます。

